

橋実施設計業務を600万7050円で委託。

◎市内の準用河川42本、普通河川123本98・9kmの維持管理は、洪水対策のみならず河川環境、安全面からも良好な管理が要望されている。

◎下田港湾整備計画に基づき、県の施工による平成24年度分の内港整備改修事業負担金は2275万9800円。



下田港外ヶ岡物揚場施工状況視察

◎景観推進事業として、景観を生かしたまちづくりを推進するため、条例に基づき登録まち遺産の簡易修繕に対し3件522万5000円の補助を実施。また下田まち遺産の検討のための市民会議を4回開催。

◎平成24年度の伊豆縦貫道建設促進事業は地域住民に対し、下田市都市計画原案説明会を

実施し、伊豆縦貫自動車道本線ルート案を公表した。

◎市営住宅維持管理事業は社会資本整備総合交付金550万6000円を受け、上河内住宅改修工事（機械整備）、同（電気整備）を2079万

1050円で実施。修繕は、大沢住宅加圧給水ポンプ制御盤修繕他16件198万2801円を実施。なお下田市営住宅条例に基づく市営住宅戸数は上河内、大沢、丸山他150戸である。

◎住宅改修建替支援事業は東海地震が切迫しているとの認識のもとに個人の耐震対策を推進するため、専門家診断16件を72万円で実施。また補強計画策定に3件28万8000円、耐震補強に2件140万円、ブロック塀等耐震改修に3件35万8695円、アスベスト対策に1件5万2000円の補助を実施。

◎急傾斜地崩壊対策事業は、河内入沢442万円（受益者負担）、吉佐美多々戸550万円（受益者負担）の2地区において県営により施工。

◎観光交流客数は292万5110人（前年度比54万4131人増）、宿泊客数は84万5847人（前年度比8万1

890人増）となり、東日本大震災の影響から回復傾向にあるものの、震災前の水準に回復するには至らなかった。

◎第73回黒船祭は、東日本大震災の災害救助救援活動に取り組んだ関係機関への感謝の意、ならびに岩手県山田・大槌両町民を招待した復興支援と位置づけ、駐日米国大使ご夫妻をはじめ多くのご参加を賜り、静岡県共催・観光庁後援のもと行われた。期間中は天候にも恵まれ、23万2500人の入込客数（平成23年度中止・平成22年度比3万3340人増）となった。

◎7・8月の海水浴場の入込状況は65万1870人（前年度比37・4％の増）。海水浴場の管理運営については、夏期海岸対策協議会を通して地元区と密接に連携し、快適で安全な環境の確保に努めた。今後も地元区と密接に連携し、一層の利便向上とブランド力向上が望まれる。

◎夏期集客を目的として設立した「伊豆下田サマーフェスタ2012実行委員会」に30万円補助し、これまでの夏期イベントならびにサマーコンサート、下岡蓮杖展、プチ特産市等の新たな事業を支援した。

た。

◎ジオサイト整備事業として420万円を執行し、田牛龍宮窟の歩道、遊歩道ならびにサイン整備を行った。伊豆半島ジオパーク推進整備については今後も世界一の海づくりプロジェクトと連動し、着地型観光商品の創出推進に努められたい。



田牛龍宮窟案内看板視察

◎平成24年4月20日より一般公開を開始した旧澤村邸の年間総利用者は4万5907人。今後は管理運営形態を検討し、観光拠点施設としての更なる機能充実に努められたい。

◎災害時の避難経路や、学校防災マニュアルの見直し、地域と連携した備蓄品確保や避難訓練など、各学校・地域の実情に応じた防災教育を行っ

た。学校教育における防災教育の推進は、学校管理下にある児童生徒の安心安全の確保はもとより、次代の防災育成に寄与するところであり、今後もより一層の向上に努められたい。

◎下田市教育振興基金を活用し、平成21年度に配備済みの浜崎小学校を除く市内6小学校に電子黒板14台および実物投影機6台を配備するため730万9890円等を執行。同設備を利用したICT教育の更なる充実に努められたい。

◎下田市立給食センター建設に向け建設用地測量業務委託費として174万3000円、用地購入費として1022万円を執行。安心安全な学校給食提供ならびに効率的な運営に寄与する施設の整備を望む。

◎下田市幼稚園・保育所再編整備基本計画に基づき、下田第3保育所解体工事1095万4500円、認定こども園建設予定地不動産鑑定業務委託費21万円、同造成設計業務委託費1393万1400円、同実施設計業務委託費703万5000円、同建設用地土地購入費200万円、同建設予定地地質調査業務委託費23万740500円、同造成工事